

中間評価結果の概要

■ 3つの重点目標は達成された。なお生活習慣上の課題は残っている。

これまで重点目標としていた項目（血圧高値の割合の減少、総コレステロールが高値の割合・HDL コレステロールが低値の割合の減少、血糖高値の増加割合の抑制）については、検査数値上は目標を達成していました。ただし、検査数値は正常範囲ですが現在治療中という人は増加していました。また肥満(BMI25 以上)の男性は増加傾向で、特に 40～50 代の男性の肥満割合は 3 割以上に上りました。

■ 生活習慣の課題はなお多い。

壮年期の男性や青年期の男女の生活習慣の問題が特に明らかになりました。この世代は適切な食習慣、運動習慣のある人は少なく、ストレスを感じる人の割合は増加していました。また多量飲酒者は増加しており、特に 40 代男性に多いです。

一方、男性の喫煙率は著明に減少していました。また子どもの歯の項目（むし歯の数、フッ素塗布率・洗口実施数など）は改善していました。

■ 基本方針の評価

・ 市民の主体的な健康づくり、地域連携の健康づくりは充実した。

この 5 年間で、市民主体の推進組織は市内各地に立ち上がり、中学校区や小学校区単位の身近な組織も増えてきました。この推進組織は地域の健康問題を考え、主体的に健康づくり活動を進めていっています。また、これまでは健康づくりとあまり関わりの無かった地区組織も、ウォーキング会や健康イベントに参加するなど、健康づくりの輪が広がっています。

公民館との連携も進んできており、地域での推進の大きな基盤となっている地区もあります。また保育園・幼稚園・学校との連携も進んできており、共に食育やむし歯予防に取り組んでいる地域もあります。しかし、地域によって差が大きく、まだ連携できていない地域もあります。企業（職域）との連携は、一部を除いてほとんどの地域で進んでおらず、今後の大きな課題です。

・ 目標項目は見直し、修正した。

6 分野の成果をふまえ、目標項目を 14 項目追加し、4 項目削除しました。また目標値は 6 項目修正しました。

・ 5 年間の取り組みには年代・分野に差があった

青年期や壮年期を対象とした取り組みはあまり進んでいません。また「身体活動・運動」「栄養・食生活」の分野への取り組みが多く、「休養・こころの健康づくり」、「アルコール」、「たばこ」の分野への取り組みは少なく偏りがみられました。